

昔話の認知度について

—アンケート調査の分析を中心に—

皆川 晶

On how wide students understand old tales

— Considering the analysis of a questionnaire —

Aki Minagawa

Abstract

To junior college students for studying nursery education, a research of their reading and understanding of contents of 37 works of old Japanese old tales, Grimm stories, Andersen stories, Aesop stories, etc. Other than understanding, experiences of reading old tales in family, nursery schools, kindergartens, etc. are researched and analyzed. Analyzing their reading experiences, and the relation between reading and understanding gave the means of getting practical teaching abilities for the preschool education.

Keywords: an old tale, degree of recognition, childcare practical, reading picture book,

1. はじめに

昔話は親が子どもに語りきかせ、古くから語り継がれてきた話である。大人になって昔話に触れると、子どもの頃、誰からどのような状況で読んでもらったか、そのときどのような気持ちになったかなど、つい昨日のことのよう思い出せるほど、昔話は私たちと密接につながっているように思われる。

『幼稚園教育要領』に、「絵本や物語などで、その内容と自分の経験とを結び付けたり、想像を巡らせたりするなど、楽しみを十分に味わうことによって、次第に豊かなイメージをもち、言葉に対する感覚が養われるようにすること。」とある。

子どもに絵本や物語の読み聞かせをするのは、保育者の役割の一つである。どのような本を選択するかは保育者に掛かっている。つまり、保育者の判断により、子どもへ及ぼす影響力も変わるので、本の選択は重要かつ慎重にしなければならない。だからこそ、将来保育者

を目指している学生にはできるだけ多くの絵本に触れ、内容を理解して欲しいと考えている。そのような願いから、授業の一環として、絵本の内容や特色、感想などをノートに書きさせる「絵本ノート」の取り組み（皆川. 2017）をしている。この取り組みを終えた2年生53名に調査（2018年7月）したところ、10～15か月（学生により取り組んだ期間が違う）の間に、一人平均49.9冊を読んだ。そのうち日本昔話は平均6.2冊、アンデルセンなどの外国の昔話は1.63冊しか読まれていなかった。昔話は親しみ深いので、学生たちが手に取りやすく、読んでくれるだろうと予想していたが、実際にはあまり読まれなかった。昔話はよく知っているからこそ、改めて「絵本ノート」には取り上げなかったのかもしれない。

以上のことから、学生たちが昔話をどのくらい知っているのかを知りたくなった。日欧の昔話の認知度と読み聞かせ体験との関連性は解かれている（向田. 2012. 2013）が、入学したばかりの1年生に、昔話の認知度や内容、子どものころに受けた読み聞かせの有無、現在の読書習慣について、2年生には昔話の内容についての調査をし、認知度と内容、読書習慣などについて考察する。

2. 方法

調査時期及び調査対象と項目については以下のとおりであり、質問紙調査を行った。

- ① 読み聞かせの有無や昔話の認知度についての調査
2018年4月 本学保育科1年生 65名 （回収率100%）
- ② 日本昔話のあらすじについての調査
2018年4月 本学保育科2年生 54名、1年生 65名 計119名 （回収率100%）
- ③ 読み聞かせに関する保育者としての意識調査
2018年9月 本学保育科1年生 61名 （回収率100%）

3. 調査結果と考察

- ① 読み聞かせの有無や昔話の認知度について
 1. 幼い頃、家族に絵本の読み聞かせをしてもらいましたか。
「はい」と答えたのは66.2%、「いいえ」は6%、「覚えていない」は26.2%、無回答は1.6%であった。約7割に読み聞かせ体験があることがわかった。
 2. 1. で「はい」と答えた人は、誰に読んでもらいましたか。（複数回答可）
「母」が42名、「祖母」が17名、「父」が7名、「祖父」が6名、姉が「2名」、「他の家族」が3名と、読み聞かせの多くは母親から受けていることがわかった。
 3. 絵本を読んでもらうことは好きでしたか。
「はい」と答えたのは64.6%、「いいえ」は1.5%、「覚えていない」は26.2%、無回答は7.7%であった。「覚えていない」「無回答」を除けば、ほとんどの学生が絵

本を読んでもらうことを好んでいたことがわかった。

4. 保育園・幼稚園・小学校のころ、自分で絵本を読むのは好きでしたか。

「はい」と答えたのは61.6%、「いいえ」は15.4%、「覚えていない」は20%、無回答は3%であった。約6割が自主的に絵本を読んでいたことがわかり、読み聞かせ体験と読んでもらうことが好きだったことが、自主的に絵本を読む行動につながったと推測できる。

5. 読書は好きですか。

「はい」と答えたのは40%で、「本の中の世界に入っていくのが楽しい」「知識を身に付けることができる」「想像するのが楽しい」という理由が多かった。「いいえ」と答えたのは24.6%で、「読むのは苦手」「途中で飽きてしまう」という理由であった。「どちらでもない」と答えたのは33.9%で、「読むのは好きだが、長いものは苦手」「難しいのは苦手」という理由であり、無回答は1.5%であった。

子どものころは、6割が好きだった（質問4）と答えたのに、現在は4割に減っている。それはスマートフォンなどを通して、簡単に早く情報を手に入れることに慣れているのが要因の一つと考えられる。「文章が長く難しいから読むのに時間がかかる」という理由から、読書を敬遠している学生が多く、子どものころ絵本を読んで楽しかった気持ちを、読書する意欲へとうまく移行できていないようだ。

6. どのくらいの割合で読書をしますか。

「まったくしない」と答えたのは44.6%で、「毎日読んでいる」は6.2%と少なかった。3%が「1週間に4～5時間くらい」、無回答は12.3%であった。残りの33.9%は「1か月に2時間くらい」「1週間に1時間くらい」などと習慣的に読書をしていない。半数近い学生が読書をしておらず、読書をする習慣が身につけていないことがわかった。

7. 次の昔話について、当てはまるものに○をつけてください。

(人数)

作品名	話を知っている	作品名を聞いたことはあるが、話は知らない	作品名も話も知らない	家族や幼稚園・保育園などで、読んでもらったことがある	自分で読んだことがある

1	かちかち山	2 2	3 3	1	1 7	3
2	つるの恩返し	5 3	6	1	1 8	9
3	花咲かじいさん	3 5	1 3	1	2 5	8
4	ももたろう	6 2	0	0	1 6	1 3
5	うらしまたろう	5 4	5	1	1 5	9
6	きんたろう	2 7	3 1	0	1 0	4
7	したきりすずめ	2 6	1 9	1 3	1 2	2
8	かぐや姫	5 0	7	0	1 6	9
9	さるかに合戦	3 4	1 7	3	2 0	1 0
10	一寸法師	3 3	2 7	0	1 3	5
11	かさじぞう	4 4	1 4	3	1 0	4
12	こぶとりじいさん	3 1	2 2	5	1 4	2
13	わらしべ長者	1 4	2 4	2 3	5	1
14	大工と鬼六	2	1 0	5 1	1	1
15	おむすびころりん	5 6	3	0	1 8	1 2
16	ぶんぶくちやがま	4	2 0	3 9	2	1
17	ねずみの嫁入り	1 1	2 7	2 5	8	2
18	3年ねたろう	6	1 4	4 2	6	0
19	ねずみのすもう	3	1 7	3 9	9	0
20	かもとりごんべえ	4	1 2	4 9	2	1
21	白雪姫	5 6	3	0	1 3	1 6
22	赤ずきんちゃん	5 7	3	0	1 5	1 5
23	ブレーメンの音楽隊	2 1	1 5	2 4	8	6
24	ねむり姫	1 9	2 7	1 4	9	2
25	おおかみと7匹のこやぎ	4 2	1 2	7	1 5	1 0
26	ヘンゼルとグレーテル	2 0	2 9	1 0	9	5
27	おやゆび姫	1 6	3 2	1 1	7	6
28	人魚姫	2 9	2 4	4	1 2	6
29	はだかの王様	2 4	2 2	1 2	1 0	9
30	マッチ売りの少女	3 9	1 7	5	1 0	5
31	みにくいあひるの子	4 1	1 6	2	1 6	9
32	雪の女王	5	2 8	2 9	3	1
33	アリとキリギリス	2 2	2 3	1 3	1 1	2
34	オオカミと少年	1 2	2 9	2 0	7	2
35	北風と太陽	1 3	2 6	2 3	8	5

36	カラスとキツネ	2	1 4	4 7	1	1
37	金のおのと銀のおの	3 3	1 3	1 3	1 3	4

※ 上記の質問事項にあてはまるものには、すべて印をつけてもらったので、調査をした65名の人数と異なることがある。

※ 上記の作品の1～20は『名作よんでよんで日本の昔ばなし20話』学研、『名作よんでよんで日本の昔ばなし20話もっと』学研、21～26は『グリムおはなし絵本』主婦と生活社、27～32は『アンデルセンおはなし絵本』主婦と生活社、33～37は『名作よんでよんでイソップどうわ25話』学研の中から学生が知っているであろうと予想される37作品を抜粋した。

【 日本昔話 】

「話を知っている」のは、「ももたろう」が62名と一番多く、「おむすびころりん」が56名、「うらしまたろう」が54名、「つるの恩返し」が53名、「かぐや姫」が50名であった。

「作品名を聞いたことはあるが、話は知らない」のは、「かちかち山」が33名が一番多く、「きんたろう」が31名、「一寸法師」と「ねずみの嫁入り」が27名、「わらしべ長者」が24名であった。

「作品名も話も知らない」のは、「大工と鬼六」が51名と一番多く、「かもとりごんべえ」が49名、「3年ねたろう」が42名、「ねずみのすもう」と「ぶんぶくちやがま」が39名であった。

「家族や幼稚園・保育園などで、読んでもらったことがある」のは、「花咲かじいさん」が25名が一番多く、「さるかに合戦」が20名、「おむすびころりん」と「つるの恩返し」が18名、「かちかち山」が17名であった。「作品名も話も知らない」と多くの学生が答えた「大工と鬼六」「かもとりごんべえ」「ぶんぶくちやがま」は「読んでもらったことがある」と答えたのは1～2名とひじょうに少なかった。他の作品においても、「家族や幼稚園・保育園などで、読んでもらったことがある」と答えたのが10名以下の作品は「話を知っている」と答えた人数も同様に少ない。よって、家庭や幼稚園・保育園で読み聞かせを受けたか否かが認知度に深く影響していることがわかる。

「自分で読んだことがある」のは、「ももたろう」が13名、「おむすびころりん」が12名、「さるかに合戦」が10名であった。

【 グリム童話 】

「話を知っている」のは、「赤ずきんちゃん」が57名が一番多く、「白雪姫」が56名、「おおかみと7匹のこやぎ」が42名であった。

「作品名を聞いたことはあるが、話は知らない」のは、「ヘンゼルとグレーテル」

が 29 名、「ねむり姫」が 27 名であった。

「作品名も話も知らない」のは、「ブレーメンの音楽隊」が 24 名、「ねむり姫」が 14 名であった。

「家族や幼稚園・保育園などで、読んでもらったことがある」のは、「赤ずきんちゃん」と「おおかみと 7 匹のこやぎ」が 15 名、「白雪姫」が 13 名であった。

「自分で読んだことがある」のは、「白雪姫」が 16 名、「赤ずきんちゃん」が 15 名であった。どちらも女性が主人公であることから、調査対象者がすべて女性であったことも影響していると考えられる。

【 アンデルセン童話 】

「話を知っている」のは、「みにくいあひるの子」が 41 名、「マッチ売りの少女」が 39 名であった。

「作品名を聞いたことはあるが、話は知らない」のは、「おやゆび姫」が 32 名、「雪の女王」が 28 名、「人魚姫」が 24 名であった。

「作品名も話も知らない」のは、「雪の女王」が 29 名、「はだかの王様」が 12 名であった。「雪の女王」の認知度が圧倒的に低いことがわかった。

「家族や幼稚園・保育園などで、読んでもらったことがある」のは、「みにくいあひるの子」が 16 名、「人魚姫」が 12 名であった。

「自分で読んだことがある」のは、「はだかの王様」、「みにくいあひるの子」が 9 名であった。

【 イソップ童話 】

「話を知っている」のは、「金のおのと銀のおの」が 33 名、「アリとキリギリス」が 22 名であった。

「作品名を聞いたことはあるが、話は知らない」のは、「オオカミと少年」が 29 名、「北風と太陽」が 26 名、「アリとキリギリス」が 23 名であった。

「作品名も話も知らない」のは、「カラスとキツネ」が 47 名、「北風と太陽」が 23 名であった。

「家族や幼稚園・保育園などで、読んでもらったことがある」のは、「金のおのと銀のおの」が 13 名、「アリとキリギリス」が 11 名であった。

「自分で読んだことがある」のは、「北風と太陽」が 5 名、「金のおのと銀のおの」が 4 名であった。

全体的に見て、イソップ童話は他の昔話に比べて認知度も低く、「自分で読んだことがある」作品も少なかった。

② 日本昔話のあらすじについての調査

1. 好きな日本昔話を1作品教えてください。

	作品名	%
1年生	ももたろう	39.5
	おむすびころりん	15.8
	つるの恩返し	10.5
2年生	ももたろう	32.7
	うらしまたろう	11.5
	かぐや姫	9.7

上記のほかに、1年生は「うさぎとかめ」「さるかに合戦」「やまんば」「かちかち山」「したきりすずめ」「かぐや姫」「こぶとりじいさん」「わらしべ長者」などがあがった。2年生は「おむすびころりん」「かさじぞう」「つるの恩返し」「大工と鬼六」「うさぎとかめ」「一寸法師」などがあがった。

1年生の約4割、2年生の約3割が好きな日本昔話は「ももたろう」と答えた。「桃から男の子が生まれるというのが、不思議だった」「鬼退治に行くのがおもしろかった」「きびだんごをあげただけで、鬼を退治しに行くのを手伝うのが不思議だった」「本を買ってもらって、毎日読んでいた」などという理由であり、親しみやすい昔話であることがわかった。

2. 次の昔話「かちかち山」「さるかに合戦」「花咲かじいさん」のあらすじを書いてください。

(人数)

作品名 あらすじ	かちかち山		さるかに合戦		花咲かじいさん	
	1年生	2年生	1年生	2年生	1年生	2年生
内容がまったく違う	4	1	0	0	2	1
登場人物を覚えている	2	6	3	9	1	8
大まかなあらすじを覚えている	2	10	13	17	5	16
全体は覚えていないが、一部分は覚えている	17	18	16	8	32	14
ほぼ完全に覚えている	1	9	2	18	1	11

※ 内容を覚えていないときは、無回答なので、上の表には人数は入っていない。

1年生は3作品ともに、ほぼ完全に内容を覚えている学生は1～2名と少なかった。2年生は9～18名と1年生よりも多く、3作品とも「ほぼ完全に覚えている」学生は5名いた。「大まかなあらすじを覚えている」学生も1年生に比べると多いのも、「絵本ノート」を作成したことが要因の一つと考えてよいだろう。1年生においては、上記の①7の認知度の調査では、「かちかち山」は22名、「さるかに合戦」は34名、「花咲かじいさん」は35名が「話を知っている」と答えたが、話の内容を明確に記憶している学生は少なかった。さらに、上記の①7の調査で、「かちかち山」は調査した日本昔話20作品の中で、「作品名を聞いたことはあるが、話は知らない」と答えた学生が33名で一番多かった。よって、他の2作品と比べて、あらすじを答えてくれた学生が26名と少なかったことは納得できる。

「かちかち山」では、「たぬき」「何かが燃える」という記憶が残っている学生が多かった。たぬきがどのようなことをし、なぜ、何が燃えたのかというところまでは覚えていなかった。

「さるかに合戦」では、「柿」「さる」「かに」というキーワードを記憶している学生は多く、「さるがいじわるした」「柿を投げ合う」、さらに「かにをやっつける」「うすがさるの上に落ちる」「かにの仲間がさるに仕返しをする」などさるに制裁を加えるという部分が印象に残っているようだ。

「花咲かじいさん」では、「優しいじいさん」「悪いじいさん」「いぬ」「花が咲く」というキーワードを記憶している学生は多かった。しかし、「木に粉をかけたら花が咲いた」と書いている学生が多く、なかには「魔法の粉で枯れた木に桜の花が咲いた」と書いている学生もいた。「何かを木にまく」という大まかに記憶している学生が多かった。

③ 読み聞かせに関する保育者としての意識調査

1. 保育者として子どもに読んであげたいのは、どのジャンルですか。次から1つ選び、それを選んだ理由を書いてください。

ジャンル	人数
日本昔話	34
グリムなどのヨーロッパの昔話	7
比較的新しい絵本（日本）	9
比較的新しい絵本（外国）	1
最近話題になっている絵本	10

55.7%の学生が「日本昔話」と答え、「自分の小さい頃親に読んでもらったから、子どもに読んであげたい」「誰もが知っている作品があるから」「日本昔話は教訓が含まれているから」「日本の文化に小さい頃から慣れさせるため」「日本昔話は日本人はほとんどの人

が知っているから、子どもにも知ってほしい」「心温まる話が多く、本を通して伝えられることがあるから」「おじいさん、おばあさん、さる、うさぎなど難しい登場人物がいないので内容が入りやすいと思うから」「新しい絵本は家庭でも読むと思うけど、昔話はあまり読む機会がないと思うから」などという理由であった。

「グリムなどのヨーロッパの昔話」では、「外国の話にも興味をもってほしいから」。「比較的新しい絵本」では、「新しいものを読むことによって、さらに子どもたちの世界観やものの見方などが変わると思うから」「子どもは新しいものには興味をもつから」という理由であった。

保育者になるための学習を始めて半年が経ち、保育者としての目で、保育者としての意識がしっかりと現れた理由が書かれていた。

2. 保育者になるには、読み聞かせなどの活動を行うためにも、学生のうちに多くの絵本に触れることは必要だと思いますか。そう思う理由も書いてください。

(人数)

必要である	57
特に必要ではない	0
考えたことがない	3
無回答	1

理由	人数
働きはじめると忙しいので、今のうちに絵本を読むことは必要だと思う	44
まだ読んでいない絵本があるから	9
ほかの勉強が忙しく、本を読む時間がないから	1
就職してから読んでも遅くないと思うから	0
今から読んでおく必要はないと思うから	0
今のうちから読む練習をし、読む力をつけておきたいから	6
ページのめくり方や持ち方に慣れておきたいから	2
絵本の知識を得ることが大事だから	4
たくさん本を読んでおきたい	1

93.4%の学生が「必要である」と答え、「特に必要ではない」と答えた学生はいなかつ

た。大半の学生が読み聞かせは大事であると考え、学生のうちに多くの絵本に触れ、子どもたちの心に触れるような読み聞かせができるように、練習したいという気持ちがよくわかった。

4. 小学校につなげるために

『小学校学習指導要領』では、第1学年及び第2学年の目標として「(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。」とあり、[知識及び技能]については「(3) ア 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。」さらに、[思考力、判断力、表現力等]については「C 読むこと (2) イ 読み聞かせを聞いたり物語などを讀んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。」と記されている。

これらの目標につなげるためには、小学校に入っていくなり読書をする習慣を身につけるのは難しく、乳幼児期に本に慣れ親しむことによって、小学校での国語の学びをスムーズに進めることができ、無理なく授業へ展開できると考えられる。小学校教育への橋渡しとして、昔話の読み聞かせを基礎づくりの一つとして活用したい。昔話は口承文学として、耳で聞いてわかりやすい話となって、伝えられてきたので、子どもにも理解しやすい構造となっている。だからこそ、昔話を通して文化や伝統を知り、国語力を身につけることができる。その基盤を作るには幼児教育での支援が必要となる。乳幼児期のうちに読み聞かせを通して、本の楽しさを伝え、想像の世界へと導き、世界を広げる支援をすることが大切である。昔話を読むことで、時代や文化の違いに触れ、日常生活では味わえない世界に触れることができる。さらに、言葉の響きや美しさを楽しむことが、本に親しむこと、のちには、自主的に本を読もうとする気持ちを生み出すことへとつながることになると考える。

5. まとめ

「幼い頃読み聞かせを受けた」、「絵本を読んでもらうのが好きだった」、「自分で絵本を読むのが好きだった」と6割以上が子どものころに絵本に親しんでいたことがわかった。また、日本昔話やヨーロッパの昔話にも多く触れていたこともわかった。

しかし、4割の学生が「読書が好き」であるのに、現在の読書状況は「まったくしない」のは44.6%で、毎日の読書習慣があるのはわずか6.2%に過ぎなかった。将来保育者として読み聞かせを行うためにも、今のうちに多くの絵本に触れたいと考えている学生が約6割いることから、まずは絵本に触れる機会を多く持ち、保育者としての知識を得るための読書へと導いていきたい。

さらに、子どものさまざまな気持ちを引き出すためにも、保育者は子どもに提供する絵本の内容を十分に理解し、読み聞かせをするのに適当な時期や年齢などを判断する必要がある。子どもの聞く力・想像力・集中力・思考力を育み、お話の世界に疑似体験できるように

伝えることができるかなど、単に「読んで聞かせる」という行為ではなく、いかに子どもの心に深く残るように伝えるか、子どもの感性を引き出せるかが重要である。さらに、昔話を通して文化、伝統、言葉のおもしろさを知る機会をつくることも重要である。だからこそ、保育者を目指す学生にはより多くの作品に触れ、学生自身が心を躍らせ、想像を膨らませることによって、感性を磨いてほしい。そして、昔話をはじめ絵本に親しむことが保育実践力を養う手段の一つとなることを願っている。

謝辞

本研究にご協力いただいた学生の皆様に心より感謝いたします。

参考文献

- (1) 文部科学省 (2017) 『幼稚園教育要領』「第2章 ねらい及び内容」「言葉」「3 内容の取扱い」
- (2) 文部科学省 (2017) 『小学校学習指導要領』「第2章 各教科」「第1節 国語」「第2 各学年の目標及び内容」「[第1学年及び第2学年]」
- (3) 安藤則夫 (2009) 「昔話から見た日本的自我のとらえ方—日本昔話が持つ教育的効果に関する一考察—」植草学園大学研究紀要 第1巻 pp. 77～86
- (4) 徳田克己・水野智美 (2010) 「幼児における『童話・昔話の絵本離れ現象』1—20年間の変化を追う—」絵本学会 NEWS No. 40 p14
- (5) 向田久美子 (2012) 「日欧の昔話の認知度 (1) —短期大学生の学年別検討—」駒沢女子短期大学研究紀要 第45号 pp. 39～47
- (6) 向田久美子 (2013) 「日欧の昔話の認知度 (2) —専攻別の検討—」駒沢女子短期大学研究紀要 第46号 pp. 33～40
- (7) 皆川晶 (2017) 「『絵本ノート』作成における一考察—保育科学生における絵本100冊読みへの挑戦、そして成果と課題—」近畿大学九州短期大学研究紀要 第47号 pp. 85～100
- (8) 矢口裕康 (2012) 「昔話の継承と保育実践」南九州大学人間発達研究 第2巻 pp. 107～115